２．町内会を基本とした防災まちづくり

京都市上京区　成逸自主防災会

京・まち・ねっと主宰

石本：



私は地元の人間ではございません。まちづくりプランナーとして、地域とのかかわりということでのお手伝いをしながら､防災まちづくりをやってきた、この 10 年余りの流れをご説明したいと思います。

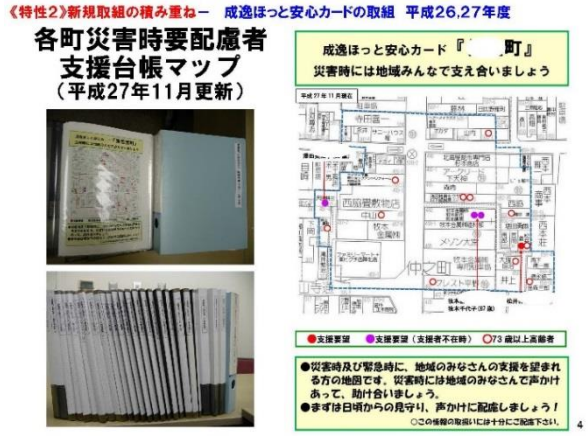
成逸学区は上京区の中でも一番北にありまして、町内会の会員数が 900 世帯程度と、比較的小規模な学区になります。



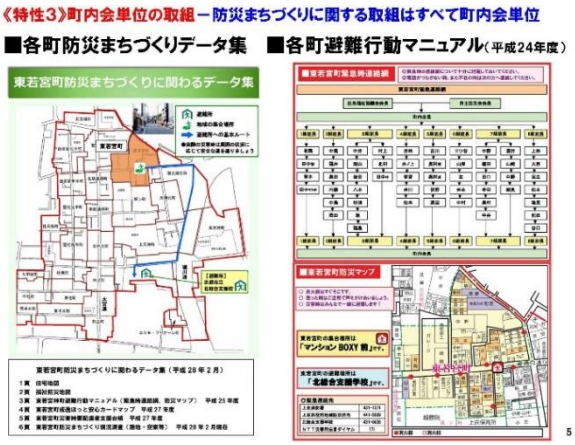
きっかけは平成 19 年の新潟県中越沖地震でした。阪神・淡路大震災の避難所の光景を見て衝撃を受けた事を忘れかけていたところに、また同じような光景を見て、何か考えなければといけないと危機感を持ったわけです。そこで、まず避難所をどのように皆で運営していくべきなのか、マニュアルを作ろうということになりました。さっそく京都府や京都市にご相談に行きましたが､「地域でマニュアルを作るものではない」と言われてしまい、そこから神戸の先達の方々のお話を聞き、ネットでも調べ、いくつかのマニュアルを元に、一字一句皆で読み合わせをして作ったのが､「**避難所運営マニュアル**」です。それが平成 20 年で、そのマニュアルを元に、その後さまざまな活動をしております。



いくつかあるなかで、東日本大震災では津波で避難が遅れたということで、全国的に災害時、高齢者や障がい者を助けようという動きがありました。成逸でも一度やってみようということで、73 歳以上の 443 人の方にアンケートを取りましたら、ほぼ 9 割の方から回答をいただきまして、その中の半数の方が、災害があった時に避難支援をしてほしいという希望が出ました。それを元に、次の年にもう一度アンケートを取りまして、結果的に 400 人以上の対象者のうち、200 人以上の方が「**成逸ほっと安心カード**」という台帳に登録をし、地図にも落として、何かあった時に支えましょうというシステムをつくりました。



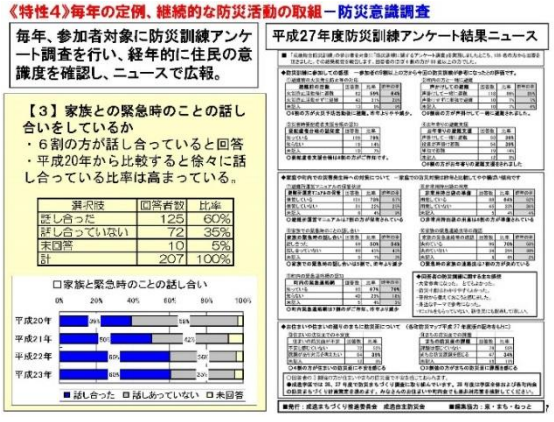
これが町内会ごとに、高齢者がどこにお住まいで避難支援を希望されているというマップになります。全部で 26 町内会ありますが、町内会ごとに作り、見守り活動を行っています。この台帳を元に、毎年の防災訓練ではお声掛けをしていただいています。



もう一つの大きな特徴は、成逸は 26 町内会あるのですが、全ての町内会で均一に取組をしようということで、緊急連絡網や消火器の設置場所、一時避難所を示すマップも全部作りました。さらに**各町防災まちづくりデータ集**ということで、**福祉防災マップやあんしん台帳、防災まちづくり計画**など、すべて 26 町内会についてのデータ集ができております。



そういった活動をいかに継続するか、皆さんに楽しんで取り組んでいただこうということで、室﨑先生からもご支援をいただき、防災訓練ではナマズにおしつぶされたカエルを助ける取組を毎年実施しています。水消火器の的あてなども非常に子どもたちに人気があります。



毎年防災訓練には 200 人から 300 人の方が来られるのですが、全員の方に毎回同じアンケートをお願いしています。と言いますのは、防災に対する意識はどうしても忘れがちなので、「家族と緊急時の話し合いをしていますか」など、毎年同じことを聞き続けて、皆さんの意識がどう変わるか、そんなに数字が上がるわけではありませんが、これをすることで意識を継続していただければと考えております。



26 町内会ごと、それぞれのニュースを作って、毎年 1 年に 1 回は必ず町内会ニュースで防災の報告を行っています。



継続的な取組というのは非常に大事で、平成 19 年の新潟県中越沖地震、平成 23 年の東日本大震災、平成 28 年の熊本地震と、起きる度に忘れかけていた状況をもう一度見直そうということで、避難所運営マニュアルをその度に見直しをしています。

皆さんご存知のように、熊本の地震によって、車中泊避難やペット同伴避難、在宅避難の様子をテレビで毎日見たことを受け、避難所運営マニュアルの中に、車中泊避難や在宅避難の方についてもどのように支援をするかについて、皆で話し合いをして、今年の 1 月に改訂をしました。このようにこれまで 3 回の取組をし、絶えずマニュアルを更新するという作業をしております。



私は立命館大学の石本ゼミという形で学生と一緒に成逸に入ったことがきっかけで、平成 14 年からお付き合いをしていますが、基本的には町内会の皆さんと私のような専門家がコラボということで取り組んでいます。表現は難しいですが、これはどこの町内会でもできます。技術的な支援は、行政からしていただいたことはございません。全部皆さんができることしかやっておりませんので、ぜひとも町内会の皆さんには色んな専門家をうまく使っていただきたいと思っています。



こういったまちづくり防災計画を全部まとめまして、平成 28 年度に学区と 26 町内会全部の防災まちづくり計画をつくり、こういった冊子にまとめて、皆さんにお配りしております。

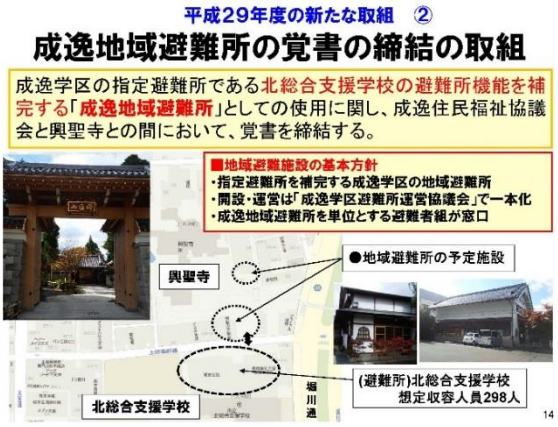
第21回防災まちづくり大賞　消防庁長官賞　受賞
成逸自主防災会（平成29年3月）
町内会を基本とした防災まちづくり
－顔の見える安心感のある成逸のまち－



こうした成果を「**第 21 回防災まちづくり大賞**」に応募したところ、今年**消防庁長官賞**を受賞いたしました。「町内会を基本とした防災まちづくり」を認めていただいたということで、非常に喜んでおります。



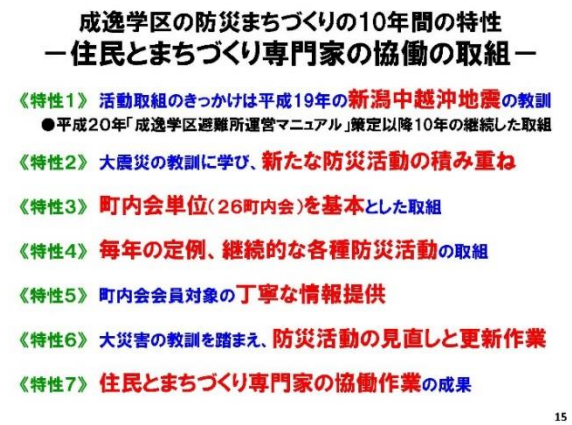
賞をいただいたことを受け、東京防災を参考に、災害時にどんなことを心掛けなければならないかをまとめた「**成逸防災心得**」をつくりました。上京区からはまちづくり支援事業の補助金をいただいて、約 1200 部を刷り、全戸に配布いたしました。



成逸学区の指定避難所は、北総合支援学校で 298 人収容できることになっています。ところが熊本地震の時のように何百人と来られると、とても収容しきれない不安感があります。そこでお寺さんに「**成逸地域避難所**」としてご協力いただけないかとご相談したところ、興聖寺さんに快諾していただきました。災害時には、興聖寺さんの一角を避難所として開放していただくことになり、新年早々に協定を結ぶことになりました。収容人員は 50 名足らずですが、北総合支援学校という正式な避難所に加えて、こういった避難所があるということが、これからの安心につながるのではないかと思っております。

成逸学区の防災まちづくりの特性を挙げてみましょう。まず 1 つ目として、きっかけは新潟県中越沖地震であったということ。2 つ目として、それ以降、

東日本大震災や熊本地震が起きる度に、それぞれの教訓に学び、新たな防災活動を積み重ねてきました。3 つ目は、26 町内会を基本とした取組であること。4 つ目は毎年の定例行事として各種防災活動に取り組むことで、皆の防災意識を高めたいと、継続してきました。5 つ目は町内会ごとにニュースを作ったり、町内会ごとにアンケートを取ったりということで、全て町内会を基本に丁寧な情報提供を行っています。6 つ目として大災害の教訓を踏まえて、防災活動の見直しと更新作業をするということ。7 つ目として住民と私のような専門家との協働作業が十数年ずっと継続しているということが挙げられます。



成逸は**「顔の見える安心感のあるまち」「ご近所づきあいを大事にしましょう」**ということで、基本的には自助・共助を大事にすることを、防災まちづくりの基本スローガンとしてずっとやっておりますし、これからも町内会単位の取組を継続していきたいと考えています。十数年お手伝いをしてきましたが、これほど楽しく防災まちづくりのお手伝いができるというのは、やはり成逸の町内会の長い歴史があって、私みたいな専門家を受け入れてくれたということが一番の結果かなと思っております。



大島：

京都の地域活動やまちづくりの特徴として、京都に数多くある大学の研究室やゼミ、サークルなどが、まちに出て、色々学びを得ていくというところが多いのが特徴だと思うのですが、今回の石本さんと成逸の運命の出会いというのも、ゼミ活動を通じての出会いだったそうですが、そもそも運命の出会いというのは、どういうきっかけがあったのでしょう。

石本：

春日学区の高瀬さんの紹介です。高瀬さんがやっておられる「ふれまちトーク」というのに出まして、たまたま同じワークショップのテーブルに成逸の前々の会長さんがおられて、私が立命館でゼミを設けることをお話したところ、学生を是非とも入れてくれという話になり、それが平成 14 年でした。そして入って、私もいくつか京都市内で各地区ごとに班を設けましたが、成逸と関わった学生は今でも地域と繋がっています。学生にとっても面白かったのと、地域の皆さんが学生をうまく受け入れて下さったのが繋がっていった。それに加えて私みたいな専門家も受け入れていただいたということかなと思っています。

大島：

その平成 14 年の時は防災がテーマではなかったのですか。

石本：

西陣の産業が衰退するなかで、跡地がマンションに代わっていくなかで、マンションが増えると、町内会の加入率が減っていくという現状がありました。これをどうしようかと、住民福祉協議会の中で**成逸まちづくり推進委員会**を立ち上げ、そこで**「せいいつ方式」**というのをつくりました。これは成逸学区でマンションを建設する場合は、必ず住民福祉協議会と管理協定を結び、町内会への加入を約束した後、町内会へ説明するというルールです。これに取り組んでいた時に、新潟県中越沖地震が起き、「防災」というキーワードが出てきたわけです。ですからそれを目的にまちづくり推進委員会をつくったわけではなく、たまたまタイミングがあったというのが平成 19 年でした。

さらに平成 25 年に地蔵盆の調査をしたところ、成逸には結構路地が多く、路地で地蔵盆をやっている

わけです。それで路地の防災についても考えなければとなり、それがきっかけでこの防災まちづくり計画に進みました。ですからもともと防災ありきではなく、「町内会があってよかった」というまちづくりに取り組んでいる時に、「防災」というキーワードが出てきたということです。

大島：

　必要性と関心どころによって、テーマをしなやかに変えてこられたのですね。